
【講 義】

くずし字について①

「くずし字の見方・読み方（概説）」

講師 恋田知子（国文学研究資料館助教）

平成28年度 日本古典籍講習会

平成29年1月17日

くずし字について ①

くずし字の見方・読み方(概説)

国文学研究資料館助教 恋田知子

①くずし字とは

- ・1-1 文字資料のうち、楷書の点画(てんかく)を省略した手書き文字、そして手書き文字をもとにした版本の文字。古典籍や古文書などの表記に用いられる。伝存資料が多いことから、近世資料を中心として「くずし字」の範疇に入れる傾向にある。
- ・1-2 「くずし字」という用語自体は、おもに歴史学や日本文学、書誌学の研究分野で使用される。書道史では行書、草書など、点画の省略段階を区分し、「くずし字」という包括的な用語は使用しない。ただし、書道史研究の対象外とされやすい近世文書や古典籍の文字については、明確な区分が存在しないことから、「くずし字」という他の研究分野での用語がそのまま一般的に使われている。

②くずし字の見方

・2-1 点画の省略

楷書の点画の省略方法には、一定の法則がある。また、時代、地域、個人単位で点画の省略に特徴が見られる場合も多い。→波多野幸彦・東京手紙の会『くずし字辞典』(思文閣出版)など参照。

・2-2 変体仮名

現行の標準字体の仮名とは異なった字体・書体の仮名。明治33年(1900)「小学校令施行規則」で採用されたものとは異なる仮名で、古文書や古典籍を読む上で必須。それぞれ仮名のもととなった漢字を字母という。→【補助資料・変体仮名表】参照。より詳細な変体仮名の字体表は、『日本国語大辞典 第2版』(小学館)や『日本史必携』(吉川弘文館)などに掲載。

3

②くずし字の見方

・2-3 連綿体

二文字以上の文字を続けて書く書体。「つづけ字」と俗称する場合もある。一字一字の区分に注意が必要。

・2-4 異体字、別体字、俗字

通行の字体以外の字体。→日外アソシエーツ編集部『漢字異体字典』(日外アソシエーツ、1994)など参照。

・2-5 敬語・付属語

敬語は単独以外に、「申候」「御座候」などのような定型句として出現することも多く、字画を大きく省略した連綿体となっている。また、「社(こそ)」や「斗(ばかり)」など補助的な品詞として働く語も漢字表記されることがある。

・2-6 反復記号(踊り字)

同一の漢字や仮名を重ねる場合、「々」や「々々」など符号で表記することが多く、踊り字あるいは畳語などと総称する。

4

③くずし字の読み方

・3-1 漢字と仮名の判別

崩して書かれている文字が漢字なのか、仮名なのかを判別する。

・3-2 前後の文章から文字を類推する

一文字では複数の読み方が可能な場合でも、前後の文章から最適な読みを試みる。→特定の地名や人名などは、判別が難しいため、地名辞典や人名辞典を活用する。

・3-3 清音と濁音の判別

基本的に古典籍の表記では、文字に清濁の別がついていない。濁点「`」や半濁点「°」は文章の前後で判断して、解読する側で読むこととなる。→稀に濁点などが付されている資料もある。また、同じ語でも清濁は時代によって異なる場合があるため、時代別の辞書などで確認する。

5

④くずし字を読むための参考資料

【辞典・字典】

- ・林英夫ほか編『増訂近世古文書解読字典』(柏書房、1972)
- ・伊地知鐵男『増補改訂 仮名変体集』(新典社、1975)
- ・若尾俊平・服部大超『検索自在くずし字解読字典』(柏書房、1984)
- ・浅井潤子・藤本篤『古文書判読字典』(柏書房、1988)
- ・中田易直ほか編『かな用例字典』(柏書房、1988→1994新装版)
- ・林英夫『古文書字叢』(柏書房、1990)
- ・林英夫『新編古文書解読字典』(柏書房、1993)
- ・児玉幸多『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版、1993再版)
- ・児玉幸多『くずし字解読辞典 普及版』(東京堂出版、1993再版)
- ・くずし字研究会『画引きくずし字解読字典 増補改訂・索引付』(新典社、1994)
- ・大石学『改訂新版古文書解読事典』(東京堂出版、2000)
- ・波多野幸彦・東京手紙の会『くずし字辞典』(思文閣出版、2000)
- ・林英夫『江戸版本解読大字典』(柏書房、2000)
- ・林英夫『音訓引き古文書字典』(柏書房、2004)
- ・法書会編集部『五體字類 増補机上版』(西東書房、2004)

6

④くずし字を読むための参考資料

- ・林英夫『入門古文書小字典』(柏書房、2005)
- ・森岡隆『図説かなの成り立ち事典』(教育出版、2006)
- ・笠間影印叢刊刊行会編『字典かな一写本をよむ楽しみ』(笠間書院、2006新装版)
- ・江守賢治『草書検索字典』(三省堂、2007)
- ・飯島春敬『古典かな字鑑 携帯版』(書藝文化新社、2008)

【教材】

- ・若尾俊平『図録古文書入門事典』(柏書房、1991→2005新装版)
- ・林英夫『基礎古文書のよみかた』(柏書房、1998)
- ・吉田豊『寺子屋式古文書手習い』(柏書房、1998)
- ・アダム・カバット『妖怪草紙くずし字入門』(柏書房、2001)
- ・柏書房編集部『覚えておきたい古文書くずし字200選』(柏書房、2001)
- ・柏書房編集部『覚えておきたい古文書くずし字500選』(柏書房、2002)
- ・宗像和重・兼築信行『くずし字速習帳 近代篇』(早稲田大学文学部、2004)
- ・吉田豊『寺子屋式古文書女筆入門』(柏書房、2004)
- ・中嶋隆・兼築信行『くずし字速習帳 近世版本集篇』(早稲田大学文学部、2005)
- ・吉田豊『寺子屋式続古文書手習い』(柏書房、2005)

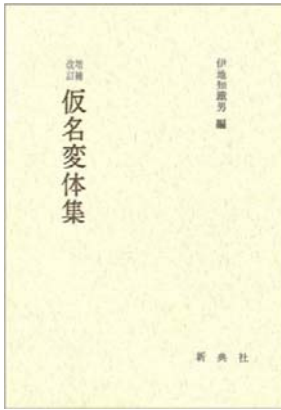
7

④くずし字を読むための参考資料

- ・兼築信行『一週間で読めるくずし字 伊勢物語』(淡交社、2006)
- ・兼築信行『一週間で読めるくずし字 古今集・新古今集』(淡交社、2006)
- ・小島孝之『古筆切で読む くずし字練習帳』(新典社、2006)
- ・菅野俊輔『書いておぼえる「東海道五十三次」くずし字入門』(柏書房、2007)
- ・菅野俊輔『書いておぼえる「江戸名所図絵」くずし字入門』(柏書房、2007)
- ・益田孝『古文書・手紙の読み方』(東京堂出版、2007)
- ・吉田豊『古文書をはじめる前の準備講座』(柏書房、2008)
- ・井上八雲『変体仮名で読む源氏物語全和歌』(新典社、2010)
- ・武井和人『日本古典くずし字読解演習』(笠間書院、2010)
- ・中野三敏『古文書入門くずし字で「百人一首」を楽しむ』(角川書店、2010)
- ・中野三敏『古文書入門くずし字で「おくのほそ道」を楽しむ』(角川書店、2011)
- ・西田知己『江戸のくずし字学習図鑑』(東洋書店、2011)
- ・中野三敏『古文書入門くずし字で「東海道中膝栗毛」を楽しむ』(角川書店、2012)
- ・中野三敏『古文書入門くずし字で「徒然草」を楽しむ』(角川書店、2013)
- ・油井宏子『古文書くずし字見わけかたの極意』(柏書房、2013)
- ・角田恵理子『国芳も春画も読めるわかる はじめてのくずし字教室』(講談社、2016)

8

④くずし字を読むための参考資料



伊地知鐵男編
『増補改訂 仮名
変体集』(新典社、
1975年) 378円



笠間影印叢刊刊行会編
『字典かな—写本をよむ
楽しみ』(笠間書院、2006
年新装版) 842円



児玉幸多編『くずし字
用例辞典 普及版』
(東京堂出版、1993
再版) 6,264円



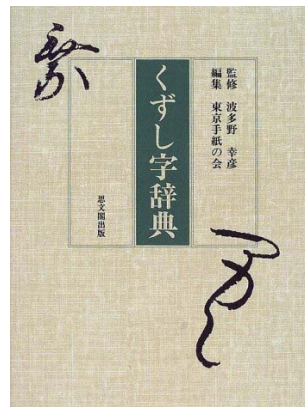
児玉幸多編『くずし字解
読辞典 普及版』(東京
堂出版、1993再版)
2,376円

9

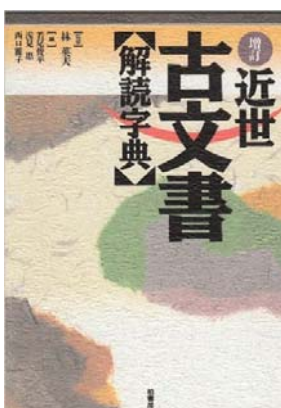
④くずし字を読むための参考資料



江守賢治編・書
『草書検索字典』
(三省堂、2007
年) 10,260円



波多野幸彦・東京手紙
の会編『くずし字辞典』
(思文閣出版、2000)
6,480円



林英夫ほか編『増訂
近世古文書解読字典』(柏書房、1972
年) 10,260円



林英夫編『新編古文書
解読字典』(柏書房、
1993年) 3,356円

10

④くずし字を読むための参考資料



東京大学史料編纂所
「電子くずし字データベース」
奈良文化財研究所
「木簡画像データベース・木簡字典」



UCLA・早稲田大学
「変体仮名あぶり」



大阪大学
くずし字学習支援アプリKuLA

11

⑤正月読み初めの吉書『文正草紙』を読んでみよう



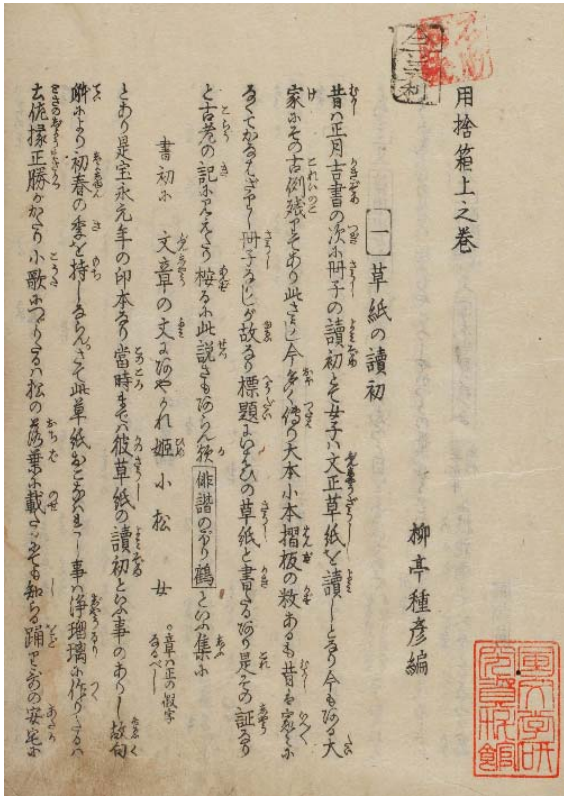
国文学研究資料館蔵『文正草紙』江戸中期写奈良絵本

『文正草紙』は、常陸国鹿島大明神の大宮司に仕えていた文太(後に文正)が塩焼きで財を成し、授かった娘は帝に嫁ぎ、最後は宰相の位にまで昇ったという祝儀物のお伽草子(室町物語)。

その祝言性から、正月読み初めの吉書や嫁入りの調度品にされるなど、豪華な絵巻・絵本が多数制作された。

12

⑤正月読み初めの吉書『文正草紙』を読んでみよう



国文学研究資料館蔵『用捨箱』冒頭

柳亭種彦『用捨箱』上之巻 天保十二年（一八四一）刊

昔は正月吉書の次に冊子の讀初とて女子は文正草紙を讀しとなり。今もある大

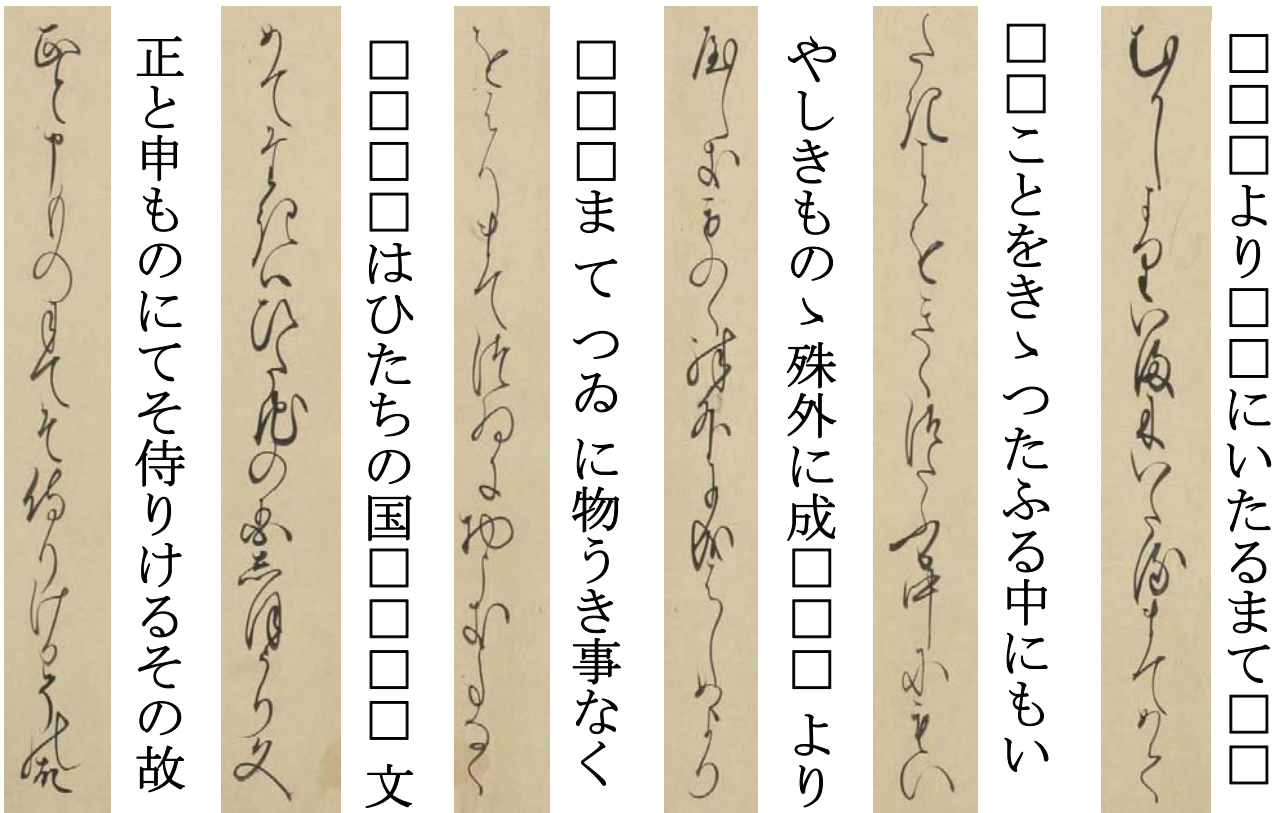
家にその古例残りてあり。此さうし今多く伝り大本小本摺板の数あるも昔は家々に

なくてはなはざりし冊子なりしが故なり。標題にいはひの草紙と書たるあり。はその証なり

と古老の記に見えたり。（後略）

13

⑤正月読み初めの吉書『文正草紙』を読んでみよう



14